

第32回 InSEA 国際美術教育学会世界大会 in 大阪 (2008. 8. 5-9)

～国際理解教育としてのアートマイル交流プロジェクト～

ジャパンアートマイル 塩飽 隆子

国際美術教育学会(International Society for Education through Art)は美術教育の国際的な学術団体であり、1900年にパリ万博で発足して以来3-4年毎に世界大会を開催している。第32回世界大会は平山郁夫氏を大会会長に「こころ+メディア+伝統」をテーマとして大阪で開催され、JAMはこの世界大会を後援した。大会では、4人のJAMメンバーが発表し、作品展示を行った。

1 日程

[日時] 2008年8月5-9日
[場所] 大阪国際交流センター



開会式 (後援団体のJAM、代表が壇上に)

古川浩一 「交流
学習における共
同制作壁画のデ
ザイン分析」



<作品展示>

ワークショップで8点の壁画を展示し、交流、壁画制作の過程を説明した。



2 内容 <4つの実践発表>

実践発表では、インターネットを活用して海外の学校と交流し、一枚の壁画を共同制作する国際的なアートマイルプロジェクトの教育効果と美術教育における可能性を示した。

塩飽隆子 「国際理解教育として効果を発揮するアートマイルプロジェクト」



西尾環 「インドネシアとの共同制作で育った子どもたちの心と感性」



岡崎あかね 「小・中学校9年間の義務教育を通して図工・美術教育に問われるもの ArtMile Project」



3 成果

アートマイル国際交流の実践者からは、海外と交流することで情報活用能力や異文化・自文化の理解が高まり、共同制作を通して表現力・創造力・鑑賞力が高まった、また交流を通して他者と自分との違いを意識し、生徒の自己確立が促されたという発表があった。

JAMは、交流相手校の紹介からインターネットを活用した交流、壁画制作に至るまでの活動全般をサポートする中でより効果的に異文化理解や相互理解を進めるカリキュラムモデルやスケジュールモデルを開発しており、それを提示して教室でのプロジェクト導入を薦めた。

国際交流プロジェクトを導入した美術の授業や校内での教科を越えた連携の提案に参加者の反響は大きく、数校が今年のアートマイル国際交流に参加することになった。